

Tsuruoka Rotary Club

国際ロータリー第2800地区

鶴岡ロータリークラブ

平成 23 年 5 月 31 日 (火) 第 2543 回 (本年度第40回) 例会

1959年6月9日創立 ● 例会場：東京第一ホテル鶴岡 鶴岡市錦町2-10 ● 例会日：毎週火曜日 (12:30~13:30)

クラブホームページアドレス <http://www.tsuruokarc.org/>

E-mail: tsuruoka08@rid2800.jp

本日(6/7)のメインプログラム

ゲストスピーチ

次年度米山奨学生 金紅蘭さん

次週(6/14)のメインプログラム

第5回 クラブ協議会

会長挨拶 佐藤孝子

新入会員歓迎会です。大いに語り合い親睦を深めましょう。

皆さん今晚は!!

今日は5月最終例会、明日から6月ですね。

まずもう皆さん新聞等でご存じと思いますが、藤川PDGのお母様が28日にご逝去されました。91歳とお聞きしていますが藤川PDGはさぞかし深い悲しみを御受けの事と御察し申し上げます。ご冥福をお祈りいたします。

新入会員の4名の皆さん、伊藤博さん、俣野秀樹さん、前田優さん、そして先月入会の石垣直さん、ようこそ鶴岡RCへ!! 昨年7月、8月に入会されました皆さん歓迎会が遅くなり申し訳ありませんでした。皆さんロータリークラブの会員になり楽しんで頂いていますか? 後ほど皆さんから一言ずつご挨拶頂きたいと思っています。7月より青柳年度がスタートです。新しい組織の中で大いに活躍して下さい。

11月の第1回目のインフォーマルミーティングは藤川PDGを中心に質疑応答の形でとても有意義な会だったと思います。今回第2回目は塚原ガバナーのお話をお聞きした後、親睦と交流をメインに楽しい時間を過ごしたいと思います。今日は会場を紅屋さんをお願い致しました。前田優さん御世話になります。美味しいお料理とお酒を飲みながら大いに語り合しましょう。上野情報委員長よろしくお願い致します。簡単ですが会長挨拶とさせていただきます。有難うございました。

幹事報告 青柳孝治

○第2回会長エレクト研修会

・日時：6月19日 会場：キャッスルホテル

○会員増強広報セミナー

・日時：6月19日 会場：キャッスルホテル

「ロータリー支援のあり方を考える」

2010-11年度 国際ロータリー第2800地区ガバナー 塚原初男 君

1. はじめに

東日本大震災は、歴史的にも、わが国の記録にない大災害であることが、日時の経過と共に鮮明になって来ました。3月11日以来、既に80日を経過した現在においても、約8千数百人以上もの多くの人々が、厚労省による死亡推定方法が決まっていなかったため、この6月11日から始まる遺族年金などの支給手続きがとれないと報じられています(山形新聞5月28日夕刊)。地震と津波による大きな自然災害に加えて、今回は、人災との見方もある福島第一原発事故による、新たな不安要因が発生し、国民の不安感は大きく膨らみ、そうした状況が長引き、1日も早い事態の収束と復興が全国民から待望されています。

思い起こせば、9.11国際テロ事件の際に、かのニューヨーク市長が非・被災者に「ふだん通りの生活をしよう!」と呼びかけたことによって、被災者の救済と復興が早められたことは、あまりにも有名です。日本国の総理大臣には、そうした真に国民を思う心が無かったこと、人々の深層心理まで思いをめぐらせてくれなかったことについては、とても残念に思います。

2. 各首脳陣の動き

そうした中で、被災国・日本に対する各国首脳陣の



出席報告	会員数	39 名
	出席	25 名
	出席率	69.44%
	前々回確定出席率	82.05%

■RI会長 レイ・クリンギンスミス ■地区ガバナー 塚原初男

■会長/佐藤孝子 ■幹事/青柳孝治 ■会長エレクト/青柳孝治
■副会長/阿部純次 ■会報委員会/樋渡美智子・嶺岸禮三

事務局:鶴岡市馬場町11-63 鶴岡産業会館3階 TEL (0235) 28-3375 FAX (0235) 28-3376

動きが活発化して来しました。

先日、日中韓首脳会議に出席するため訪日した中国の温家宝首相と韓国の李明博大統領は、福島・宮城両県の避難所を訪れ、被災者を励ましてくださいました。これに続き、バン・キムン国連事務総長は8月に訪日し、被災地を視察して、被災者を激励する方向であると報じられています（山形新聞5月28日夕刊）。

3.RI ニューオーリンズ年次大会

今回の国際ロータリー、ニューオーリンズ年次大会最終日に、カロヤン・バネルジー次期RI会長は、その所信表明の中で、母国インドで発生した大地震災害の際に日本国から受けた支援に深謝し、今回は日本が全世界のロータリアンから支援を受ける立場にあることを明言しました。次次期RI会長に決定された田中作次氏（八潮RC）は、今回の大震災に対する支援に深謝すると共に、ロータリーの奉仕哲学を全世界の人々に広げたいと表明されました。

4. 巨大自然災害の共通点

今回の国際年次大会で、ロータリー支援のあり方について、幾つか学ぶことができました。その一つは、先年、全州を襲った巨大ハリケーン・カトリーヌによる大災害の講演からで、その被害は、米国の災害史上有数の大災害であったということでしたが、ロータリー関係での最大被害は、40数名規模のクラブが僅か6名のクラブになったということでした。数年後の今日、そのクラブは6名の強い復興意欲と、周辺地区及び全世界各方面からのクラブ支援により、元の40名規模のクラブに復興出来たということでした。6名の生き残り会員は、「最も奉仕する者が最も報われる」というロータリーの奉仕哲学の実証に喜び、感謝し、現在も奉仕活動に励んでおられるとの紹介でした。

筆者が注目したもう一つは、他の被災クラブを含む複数の被災クラブへの支援が、例会開催施設の建設費支援、又は一定期間借用するための経費支援、失われた例会備品の購入経費支援、そして激励という心の支援といった内容であり、被災ロータリアン個人への直接的な金銭支援は皆無であったという点です。

更にもう一つ注目した点は、会員数がゼロになったクラブは無かったということです。内部努力と外部支援によって、ロータリークラブ自体が消滅された事例は無かった、或いは報じられていないという点が共通しているのではないかと推測されます。

5. 今年度ガバナー会の対応

第3回ガバナー会は、去る4月25日に東京で開催されました。その後、上野操ガバナー会議長と織田吉郎東日本大震災支援検討委員会委員長の連名による5月2日付文書で、ガバナー会に寄せられた義援金は5月2日現在7億8千万円余り、うち6被災地区に計1億1千5百万円を見舞い金として差し上げたこと、今後の支援方針には①公正、②建設的、③温かいプログラムという観点から、中学・高校・大学・専門学校生への奨学金支援を目的とする「災害遺児の教育環境支援プログラム」、及び、非被災5クラブが1つのグループを作り、被災1クラブを物心両面で支援する「ファ

イブ・フォー・ワン・プログラム」とすることを考えて検討中であること、6月9日に第4回ガバナー会を盛岡市で開催する予定であり、前日には有志による被災地視察が予定されているという連絡が届きました。

6. ロータリー支援のあり方

上述の義援金の配布方針は、消滅クラブが無いことを前提にすれば自分も賛成です。しかし、実際には、2520地区の一部の存続が絶望的なクラブや、存続の困難視されるクラブがあるとも伝えられています。これまでの世界の巨大自然災害では殆ど無かったことです。この点を重視し、上述の今年度ガバナー会の義援金配分方針を実行する以前に、カトリーヌ災害事例で経験したロータリー支援方式を実行するよう提言し、そして激励という心の支援については自分自身実行したいと考えています。また、被災ロータリアン個人への直接的な金銭支援は皆無とすべきは当然のことです。

7. おわりに（真のロータリアン）

ロータリーの世界には「他者に最も奉仕する人は最も報われる。何故なら、その奉仕の心が他者に感謝として受け止められ、いつかは、きっと感謝のお返しとなって還ってくるから。」という言葉があります。

したがって、真のロータリアンは、

- ① 他者に対し常に奉仕する心を持っている人
 - ② 他者から奉仕の心が届けられたら、感謝の心を抱ける人
 - ③ そして、いつか困っている他者を見掛けたら、感謝のお返しに奉仕の心を他者に届けることの出来る人
 - ④ 以上の①②③の全てを常に心得ている人
- と言えるでしょう。

以上

委員会報告

★出席委員会

○メイクアップされた方

藤川 享胤	嶺岸 禮三	斎藤 昭	佐々木喆彦
富田喜美子	本間喜美子	加藤 恒介	加藤 賢
丸山 隆志	真島 吉也	佐藤 孝子	田中 豊
加藤 亨			

新入会員歓迎会

会 場：紅屋
時 間：18時30分
参加者：26名

